

令和5年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立高等学校)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 未来を創る しなやかでたくましい人材の育成 |
| 目指す学校像 | 新しい時代の教育を創造し、しなやかでたくましい人材を育てる川口市のリーディング校 |

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| | |
|----------------|----|
| 出席者 | |
| 学校関係者 (教職員を除く) | 2名 |
| 事務局 (教職員) | 4名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | 年 度 目 標 | | 年 度 評 価 (令 和 6 年 1 月 3 1 日 現 在) | |
|-------------|--|--|---|--|-----------------------------|
| 領 域 | 現 状 と 課 題 | 重 点 目 標 | 具 体 的 方 策 | 重 点 目 標 の 達 成 状 況 | 達 成 度 次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策 |
| 組織運営 | ○国公立・難関私立大学進学を目指す文武両道の学校づくりと川口市のリーディング校として教育活動を推進する必要がある。 ○SSH事業を学校運営の中核とし、各学科・コースの特色化を推進することが求められる。 | 「 進学校・SSH指定校として前進する 」 ○SSH事業を通じた理数科教育の充実を図りつつ、スポーツ科学コースの学力向上、特進クラスの特色化等を進める。 □政策アドバイザーと管理職が率先垂範し、各主任と目標の連鎖を進める。 | ○SSHを軸にした理数科教育の一層の充実 ○土曜講習の工夫・改善 ○部活動の活性化と文武両道の奨励 □定例の政策会議と企画委員会等による管理職・各主任との定期的な情報交換の実施 | ○SSH事業を踏まえ、大学・研究機関と連携し、理数科の探究活動(カリキュラム開発)を充実させた。スポーツ科学コースでは実習、講演会等のコースの特色を出す教育活動を展開した。 □目標の連鎖に向け、定期的に政策アドバイザーや関係各主任と情報交換を行った。 | B A |
| 教育課程 | ○新教育課程、SSH事業の円滑な実施と内進生の受け入れや中高一貫の学習指導体制の構築が必要である。 ○1人1台端末によるICTを活用した授業等を各教科や年次で一層研究、推進していくことが求められている。 | 「 SSH事業を展開し、国公立大学への進学に対応する教育課程を実施する 」 ○国公立大学の現役合格者50名以上を目指す。 □SSH事業と観点別評価を日々の授業や学力向上に活かす工夫を行う。 | ○学校全体で授業時数確保と授業改善に取り組み、3年間を見通した系統的な学習指導を行う ○文武両道のための家庭学習の奨励と早朝、放課後の自習環境を整備 □観点別評価の教科におけるPDCAサイクルを確立 | ○学期末の授業確保、長期休業中の進学補習を実施し、国公立進学を目指す生徒を育成した。また、学力向上委員会、自習室運営委員会を中心に、土曜講習の充実、定期考査前の学習支援員の配置等、自学自習の環境を整備した。 □5月と10月に大学教授による観点別評価研修会を実施し、教科毎の学力向上を図った。 | B B |
| 開かれた学校づくり | ○市内を中心に、全体的に本校の魅力を発信し、SSH事業や各学科・コースなどの特色を継続的に広報していく必要がある。 ○学校生活の記事をホームページに掲載し、地域や保護者に対する情報発信が求められている。 | 「 地域に根差した学校づくりと、中学生や関係者へ積極的に広報する 」 ○高校入試における志願倍率の維持を目指す。 □近隣の小中学校や塾との情報交換と連携を図る。 ◇学校生活の様子を「見える化」する。 | ○学校説明会・見学会の内容充実と改善 ○ポスターを近隣中学校に配布した。また、中学校訪問や学校説明会・見学会、ホームページの充実を図り、積極的な生徒募集を行った。 □中学校教員対象の進路指導研修会の実施 ◇1日の学校の様子をホームページで公開する。 | ○広報活動に力を入れ、チラシ・ポスターを近隣中学校に配布した。また、中学校訪問や学校説明会・見学会、ホームページの充実を図り、積極的な生徒募集を行った。 □中学校教員対象の研修会は実施しなかったが、中学校や塾等主催する説明会で情報交換、連携を図った。 ◇教育活動や学校行事、部活動等の情報を中心に、学校生活の様子を随時更新した。 | A B A |
| 教職員の資質向上 | ○政策アドバイザーをはじめとした川口市独自の人材配置を研修等に活用し、研修を充実させ、初任者の人材育成に注力する。 ○最新の施設設備や立地条件など、大学・研究機関の協力が得られやすい。 | 「 授業第一主義を学校全体で徹底する 」 ○指導方法の工夫・改善を推進する。 □探究的な学習を意識した授業実践を研究する。 ◇市独自の人材を活用し、AL、ICT等の各種研修を充実させる。 | ○授業研究週間(年2回)の互見授業と教科別及び教科横断的研修の実施 ○校外研修に積極的参加 □SSH研究発表会の実施 ○大学や研究機関との連携事業の推進 ◇政策アドバイザーによる校内初任者研修の実施 | ○6月と11月に授業研究週間を2週間実施し、互見授業を通して、各教科での授業改善を進めた。 □理数科に加え、普通科でも課題研究に取り組み、探究的な学習を推進した。また、理数科を中心とした大学、研究機関との連携事業を充実させた。 ◇政策アドバイザーの指導の下、計画的な初任者研修を実施した。 | A B A |
| 施設・設備等の管理 | ○不審者や防犯対策、自転車事故の防止等、安全安心な学校づくりが必要。 ○附属中・定時制との施設共用を一層工夫。 ○ICTをはじめ、施設設備を効果的に活用し、教育活動を充実することが求められる。 | 「 既存の施設設備を有効に活用するとともに、安心安全な学校生活を保障する 」 ○学校内外での生徒事故防止に取り組む。 □施設の共用と有効活用 ◇ICT環境を整備し、教育活動を充実させる。 | ○防災教育と不審者・防犯対策の充実 ○自転車利用者に対する登校指導の継続的実施 □附属中・定時制と定期的な連絡調整会議との実施 ◇教員側のICTの環境整備と生徒のネットワーク環境の充実 | ○避難訓練等の防災教育を年2回実施。自転車通学者に対する登校指導を計画的に実施し、事故防止等の啓発を行った。 □定時制・附属中・事務室の調整会議を月1回実施し、施設利用の有効活用を図った。 ◇生徒用タブレット端末の導入と校務・指導用PCが更新され、授業での活用が進んだ。 | B A B |

| | |
|--|-----------|
| 学校関係者評価 | |
| ※実施日 | 令和6年2月13日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | |
| ・負担もあるだろうが、SSHでの取組を理数科から普通科にも波及させてほしい。 ・いかに教科の中で連携をとって教科の中での還元ができれば、意識の変化や質の向上に繋がるかもしれない。 | |
| ・特になし | |
| ・中高連携については教員間の連携が一番。保護者の期待も大きいと思う。 ・自主的な学びの意識が低いと高校では大変である。 ・生徒に課題をどの程度課すかという点が難しい問題。 | |
| ・特になし | |
| ・市政90周年式典では大きく寄与してもらった。市長の期待に応えてくれた。 ・市政に今後も参加を。 | |
| ・特になし | |
| ・ホームページの充実には実際に担当の負担もある。各種媒体を通じて保護者へいかに情報を伝えていくか、難しいが大事で理解をもらう大きな手段である。 | |
| ・教科、分室内で連携を。組織的にやるのが大切だが難しい。 | |
| ・特になし | |
| ・人事応募制度に関心のある先生に興味をもってもらえるように。 | |
| ・特になし | |
| ・PCが繋がりにくい状況がたまにあるなど、環境整備の充実は引き続きお願いしたい。 | |